就職活動応援特集

働きやすい環境へ率先

安部日鋼工業
大阪支店 工事部 工事課 主任
住友 一貴さん

■多くの人と出会う仕事

安部日鋼工業は、プレストレストコンクリート（PC）の技術を生かし、橋梁、タンク（配水池）、鉄道、建築など、あらゆる事業分野の施工で豊富な実績を持つ企業です。私は入社8年目で、これまでPC橋梁やPCタンクの建設に携わり、北陸新幹線の高架橋を担当したこともあります。

昨年、一級土木施工管理技士の資格を取得しました。難易度が年々高くなっている資格試験なのですが、社内勉強会での先輩方の指導や、自分でも頑張ったと思える努力のかいもあって一発合格を果たしました。現在はPC高架橋の建設工事を、初めて工事の運営や管理を行う責任者である「現場代理人」として担当しています。

多くの人が利用するものを世に残す、確実に人の役に立っている仕事であることが一番のやりがいだと思います。また、現場ごとにさまざまな業種の人と出会うことで新しい人間関係が生まれ、刺激をもらえるのも魅力です。

■業種間の考え方の違いを学ぶ

昨年担当したPCタンク新設工事の現場は、特に印象深い経験でした。PCタンクの構造は2階建てで、バルブや電気盤などの建築設備の2階に配水池の土木設備が乗っかっているような構造の配水池でした。さらに、PCタンク自体も維持管理上の理由から、槽内が円筒形の壁によって内側・外側に仕切られたドーナツのような二重構造の珍しいものでした。私にとっては初めてのPCタンクの現場で、かつ短い工期だったこともあり、業種間での工程調整をはじめ、とにかく大変な現場でした。

また、土木業者と建築業者との構造物に対する考え方のギャップにも驚きました。土木業者にとっては構造物そのものが完成品なので、躯体表面の仕上げ方について厳格さがあります。一方、建築業者は、躯体を打った後にさらに上から装飾を行うため、土木構造と躯体の表面仕上げの考え方に違いがあります。この考え方の違いは苦労の種でもありましたが、異業種の人と同じ現場をともにするこの仕事だからこそ得られた学びでもあります。

■後に続く働き方を

ハードなイメージを持たれがちな施工管理の仕事ですが、当社でも近年は現場に週休2日制を導入し、残業時間もしっかり管理するようになりました。その成果もあってか、ここ数年間で入社した支店の若手社員は今も元気に仕事を続けています。

私自身、今の現場では現場代理人という責任ある立場となったこともあり、働きやすさには気を配っています。例えば、祝日の月曜日に現場に出てきた人は、週末の金曜日を休日にして3連休にするといった調整は徹底するようにしているほか、私も週末は早めに退勤するなど行動でも示しています。今後、育児休暇も取得したいと考えていますし、自分が率先して行動することで後に続く社員が増え、結果的により働きやすい環境を整えていければと考えています。

地域と創る下水道の未来

NJS
九州総合事務所 下水道部
グループリーダー
酒井 重宏さん

■上場企業の安心感で

入社時は日本上下水道設計という社名でしたが、その後現在の社名であるNJSに変更されました。水コンサルタントに興味を持ったのは、大学で行っていたライフサイクルアセスメントの研究で、下水処理場を研究対象としたことがきっかけです。当社への入社は、上場企業としての情報開示の充実による安心感から決めました。今年で12年目になり、課長級のグループリーダーとして部下を率いています。

■計画策定で活躍

入社以来、現在所属している九州総合事務所において、九州地方の自治体の下水道関係の計画策定支援を行っています。私が関与している業務は、事業計画、ストックマネジメント計画、浸水対策計画など下水道計画全般にわたります。

事業計画は、いつどこに下水道を整備するのかなど、下水道事業の基本的な内容を決める計画です。策定に当たっては、お住まいの方の考えや、地域の将来のあり方を考慮する必要があります。例えば、1人暮らしの高齢者の方は、下水道の接続を希望されない場合があります。この場合、当該住宅までの下水道の整備は、事業の無駄につながる可能性があります。こうした事態を回避するため、住民アンケートを行うなど、業務内容は多様です。地域にとって最適な計画の策定を心掛けています。

ストックマネジメント計画は、自治体が下水道事業において保有している膨大なストックの適切な管理・改築・修繕を行うための計画で、日本各地で下水道施設の老朽化が進む中、その重要度が増しています。策定に当たっては、地域の調査会社と連携しながら効率的なデータ蓄積体制の構築も図っています。

浸水対策計画は、地域で発生した浸水被害を軽減していくための計画です。策定に当たっては、過去の雨の降り方や、土地利用の状況、河川から側溝までの既設水路形態を調べます。多くの自治体では、細やかな水路施設の正確な把握ができていないことも多いため、現地を歩いてどこに何があるのかの調査から行っています。

共働き家庭で、家事は妻と分担しており、休日は子どもと過ごすことが多いです。今年で34歳になりますが、共働き世帯の数が増えた最初の世代という自覚があります。当社の男性育休取得率は100%になりましたが、さらなるワークライフバランスの改善に向け、率先して取り組む姿勢を示していく必要があると感じています。

■地域とともに

当社は全国各地に事務所があり、きちんと現地に行って、自治体の方と密にコミュニケーションを取ることを重視しています。こうした「現場主義」「地域主義」だからこそ頼られる場面もあり、計画ができあがった時にいただくお礼の言葉は、大変やりがいになっています。

上下水道の課題は全国各地で山積していますが、地域とともにその解決を進めていく、そんな仕事に関心のある方と、一緒に働くことができればと思います。

若手・中堅社員が語る

社会を守るやりがいある仕事

ヴェオリア・ジェネッツ
人吉事務所 所長
古賀 貴則さん

■水道局の信頼されるパートナーとして

私は以前、不動産業界に勤務しておりましたが、社会インフラを支える安定的な仕事に興味を持つようになり、転職活動を開始しました。

その中で出会ったのがヴェオリア・ジェネッツでした。全国の上下水道事業体から信頼されるパートナーとして、料金徴収や検針などのカスタマーサービス、システム開発や施設の運転維持管理など、上下水道事業の幅広い分野で実績を重ねているところに魅力を感じ、入社を志望しました。

上下水道事業は水道法や下水道法、各自治体の給水条例等に基づいて運営されており、法学部出身の私にとって知識が生かせる場でもありました。

■豪雨災害対応に貢献

2020年7月、熊本県南部を襲った記録的な豪雨では、球磨川の氾濫により人吉市内でも甚大な被害に見舞われました。

当社は人吉市において業務を開始したばかりのタイミングでしたが、地元に根差す企業として水道局と一体となって事業の継続と復旧に努めました。被害は、民家だけではなく水道施設にも及び、市内各所で断水が発生しました。水道局職員の方々が応急給水等の対応に追われる中、地元出身の私たち営業所員は市民からのお問い合わせ対応等の支援を行いました。

復旧後、水道局の方から「皆さんの的確な対応により、混乱を最小限に抑えられ、市民サービスの継続性を確保できたことに感謝しています」と言葉をいただいた時は、とてもうれしく、この仕事の意義とやりがいを実感しました。

■皆で助け合う職場環境

当社の特徴の一つは、部署や役職を超えた社員同士の強い連帯感と、すぐに助け合うことができる風通しの良い職場環境だと感じます。豪雨災害の時も、九州エリア内外から多くの社員が支援のために駆け付けてくれ、とても心強かったことを覚えています。

また研修制度も充実しており、未経験の方でもスムーズに業務を習得し、活躍できるサポート体制が整っています。待遇面では物価高に対応したベースアップも実施しているほか、当社ならではのユニークな福利厚生も充実しています。

水道インフラを通して社会や人々の安全な生活を支える仕事に興味をお持ちの方は、ぜひ当社で一緒に働いてみませんか。

皆さまからのご応募を、心よりお待ちしております。

TJTM 月島ジェイテクノメンテサービス株式会社

通称 ティージャス（TJAS）です
みずから、これから。
TJAS 月島JFEアクアソリューション株式会社
月島ホールディングスグループ